

# A Study of Chord Liking for High School Students

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/23366">http://hdl.handle.net/2297/23366</a>

# 現代高校生の和音の好みについて

松中 久儀・楠 景二\*

## A Study of Chord Liking for High School Students

Hisanori MATUNAKA & Keiji KUSUNOKI

### I 目的

今日、高等学校の音楽教材として、取り上げられている西洋音楽の大半はホモフォニーであり、旋律とそれを支える和音から成っている。教科書に収録される場合、芸術作品の場合は多くは伴奏も含めて、ほぼ原曲どおりである。時には移調されていることもあるが、それ以上手が加えられていることは少ない。出版社によってはコードネームを付している場合もあるが、多くは付していない。これに対しポピュラー音楽に分類される曲の場合、メロディーラインにコードネームを付して収録されているものが殆どである。ニューミュージックの場合は、伴奏譜に作曲者自身がコードネームを付している。こういった曲は教科書に収録されている伴奏譜に基づくピアノ伴奏のほか、電子キーボードやギターなどによるコード伴奏によって取り上げられることも多いと考えられる。或るいはコード伴奏によるアンサンブルの教材として活用されることも少なくないと思われる。このような扱われかたをした場合、生徒の活動意欲を左右する潜在的な要因としてコードそのものに対する好みの問題が考えられる。活動意欲は、教師の授業展開の技術によって左右されるであろうということは論を待たないが、このような、教師のパーソナリティによって変動するパラメーターを取り除けば、メロディーの美しさ、歌詞の内容、コード進行、曲全体の雰囲気などが活動意欲を左右する、音楽的パラメーターと

なる。これら幾つかのパラメーターのうち、コード進行に着目すると今日の作品の多くに付されているコードには、テンションノートを含むものが多いことに気付く。そのような例として、N.ワシントン作詞・L.ハーライン作曲の「星に願いを」(譜例1)と糸井重里作詞・矢野顕子作曲の「自転車でおいで」(譜例2)を挙げておく。本来、コードはテンションノートの有無にかかわらず全て機能と声として処理されるものであるから、相互に関連し合う流れにおいて音楽上の意味を持つ。従って本来ならば異なった幾つかのコードの流れを提示し、それに対する好みを見るべきである。しかし、その前段階として、まずコードを単独に提示することにより現代高校生の、各種のコードに対する好みの、基本的傾向を知ることが今回の調査の目的とする。

### II 方法

#### 1. 対象

金沢市内A校、金沢市近郊B校の両普通高校1・2年生の音楽選択履修者258人を対象とした。人数内訳は表1のとおりである。

#### 2. 期日

A校：平成6年12月9日、13日

B校：平成6年12月12日

#### 3. 調査内容及び手続き

質問A～Dの4問からなり、A～Cの3問は各問8つのコードを聞かせ、各コードに対し、

Table 1 Object Number of Each School

school	s.year	sex	N
A	1	M	24
A	1	F	48
A	2	M	29
A	2	F	57
<hr/>			
B	1	M	29
B	1	F	52
B	2	M	3
B	2	F	16

このような和音色を「好むかどうか」の問に対して「好む(Yes)」、「好まない(No)」、「どちらでもない(UD)」の3肢で答えさせた。各コードは5秒間提示し、各コード間は10秒間あけた。又、各問の間は、1分間とした。このような調査の場合、コードの提示はピアノによることが多いが、ピアノは減衰音であるため和音色の判断にはやや不向きとの考えから、今回はシンセサイザー(YAMAHA EOS-500)のストリングス合奏音を使用した。提示コードと提示順序は次のとおりである。又、提示した和音形は譜例3のとおりである。

## 譜例3

問A C C<sub>6</sub> C<sub>m</sub> C<sub>m6</sub>

問B C C<sub>M7</sub> C<sub>m</sub> C<sub>m7</sub>

問C C<sub>aug</sub> C<sub>9</sub> F<sub>m9</sub> G<sub>7-9</sub>

C<sub>dim</sub> F<sub>dim7</sub> C<sub>2</sub> C<sub>sus4</sub>

## (1) 問A

a. C b. C<sub>6</sub> c. C<sub>m</sub> d. C<sub>m9</sub>  
e. C<sub>6</sub> f. C g. C<sub>m6</sub> h. C<sub>m</sub>

## (2) 問B

a. C b. C<sub>M7</sub> c. C<sub>m</sub> d. C<sub>m7</sub>  
e. C<sub>M7</sub> f. C g. C<sub>m7</sub> h. C<sub>m</sub>

## (3) 問C

a. C<sub>aug</sub> b. C<sub>9</sub> c. F<sub>m7</sub> d. G<sub>7-9</sub>  
e. C<sub>dim</sub> f. F<sub>dim7</sub> g. C<sub>2</sub> h. C<sub>sus4</sub>

問A・Bについてはe～hのコードはa～dの順序を入れ替えたものである。a～dの回答とe～hの回答を比較することにより、この調査の信頼性をみようとしたものである。なお、このように同じコードが順序を変えて提示されることについては対象者には知らせていない。

問Dは今回の調査主旨から若干はずれるが、続けて提示された2つのコードが同じものとして聞き取られているかどうかを調べたものである。これらのコードは別のコードネームで表記されているが実は一方のコードの転回型と一致する。従ってこれら2つのコードはバス音の異なる同一コードとみることができる。これを同一のコードとして聞き取っているのか、あるいは、異なったコードとして聞き取っているのかを調べたものである。この問Dは、2つのコードの基本型を5秒間ずつ続けて提示し、続けて聞こえた2つのコードは「同じコードであったと思うかどうか」に対して、「同じであった(Yes)」、「異なっていた(No)」、「分からない(UD)」の3肢で回答させた。問Dで提示した和音型は譜例4のとおりである。調査は全て無記名で各クラスごとに行った。回答用紙を配り、調査の主旨と回答方法の説明をした後学年、クラス名と性別を記入させ、各問の小問

譜例4

問D C<sub>6</sub> A<sub>m7</sub> D<sub>m7</sub> F<sub>6</sub>

ごとに回答させた。全問回答後直ちに用紙を回収した。1クラスの人数は13~43人であった。

(4) 問D

a.  $C_6 \rightarrow A_{m7}$       b.  $D_{m7} \rightarrow F_6$

Ⅲ 結果及び考察

1. 信頼性について

問A・Bは小問 a、b、c、d に対して f、e、h、g がそれぞれ対応している。従って a、b、c、d の回答の内訳数と f、e、c、d の回答内訳数とが一致しなければならないはずであるが、実際には回答者の気持の揺れや、同じコードに対する耳の慣れがあり、10~20%位の範囲で変動が認められる。(表 2, 3)

CとC<sub>m</sub>については計4回尋ねている。前述のように回答内訳数には変動があるが、各小問の回答合計(表4)では、3肢間に大きな変化は見られず、対象全体の傾向は動いていない。従って各問の回答は対象全体の傾向を表しているものと考えられる。よって問A・Bについては小問 a、b、c、d までの回答を対象全体の回答として見ることにした。

又、今回の対象は筆者の一人が授業を受け持っている生徒達である。従って標本抽出に関しては、無作為抽出等の手続きは取っていない。しかしながら、対象は現代高校生の一部であることは事実であるから、結果は現代高校生の一側面を表していると言える。又、今回の対象が母集団に対する適合性があるとは考えられないが、結果の一部については検定を行った。これはあくまでも参考ではあるが、無作為抽出の手続きを取ったと仮定するならば、このような結果になるということを示した。

2. 問A

問Aの小問 a、b、c、d の全体集計を抜きだし、表5として再掲する。

Cは「好む」が70.2%、C<sub>6</sub>とC<sub>m6</sub>は「好まない」がそれぞれ58.1%と62.0%であった。これらの結果は、全て1%水準で有意であった。C<sub>m</sub>はどちらでもないという結果であった。第6音のテンションノートを含むコードはメジャー・トライアド、マイナー・トライアドを問わず好まれていない。更に、この結果を男子女子に及び学年に分けて集計したものが、表6, 7である。男女について見るとC<sub>6</sub>、C<sub>m6</sub>の両方に対して、女子の方が好まない割合が10%ほど高い。学年について見るとC<sub>m</sub>に対して1年の方が5.3%「好む」の割合が高く逆に2年は「好まない」とする割合が11.9%高い。このことは後述する問BのC<sub>m</sub>の回答の傾向とほぼ同じであることから、今回の対象の学年の違いによる好みの傾向差と言える。

3. 問B

問Bの小問 a、b、c、d の全体結果を抜き出し、表8として再掲する。Cは67.9%、C<sub>M7</sub>は47.6%と「好む」の割合はかなり高い。C<sub>m</sub>とC<sub>m7</sub>は「好む」と「好まない」とがほぼ同率であり大差は見られない。C<sub>M7</sub>は長7度のテンションノートを含みその響きは鋭い。ベースとなるコードがメジャー・トライアドであるためと考えられるが、この結果は5%水準で有意であり、現代高校生のコード嗜好の特徴を表している。男子女子及び学年で見ると表9, 10のようになる。CとC<sub>M7</sub>を好むことについては男女間に違いは見られない。C<sub>m</sub>については男子は「好む」と「好まない」の差は殆ど見られ

Table 4 Number of Answer for C and Cm

(N:258)

question(chord)	answer : n			question(chord)	answer : n		
A-a (C)	yes:181	no: 37	ud:40	A-c (Cm)	yes:110	no:109	ud:39
A-f (C)	yes:176	no: 39	ud:43	A-h (Cm)	yes:107	no:104	ud:47
B-a (C)	yes:175	no: 37	ud:46	B-c (Cm)	yes: 99	no:111	ud:48
B-f (C)	yes:161	no: 44	ud:53	B-h (Cm)	yes: 85	no: 95	ud:78

ないが、女子は「好まない」の割合の方が7.5%高い。 $C_{m7}$ については男子は54.2%が「好む」としており逆に女子は「好まない」傾向にある。学年で見ると、Cと $C_{M7}$ を「好む」ことについては学年間に差はみられない。 $C_m$ については1年が42.4%と僅か3.8%の差であるが、「好む」の割合が高く、2年では49.5%と17.1%の差で「好まない」の割合が高い。 $C_{m7}$ については学年差を見ると1年は42.5%と4.6%差で「好まない」とする割合が高く、逆に2年は44.8%と9.6%差で「好む」とする割合が高い。このことについては有意差は認められない。

#### 4. 問C

問Cは $C_{aug}$ と $C_{dim}$ を除けば、他は全てテンションノートを含むコードである。 $C_{aug}$ は増5度を、 $C_{dim}$ は減5度を含み、これらの音程は不協音程ではあるが、テンションノートを含むコードには分類されない。全体の集計結果は表11のとおりである。

$C_{aug}$ は、問Cのなかでは唯一「好まない」の回答が多く60.1%で、1%水準で有意であった。 $F_{m9}$ 、 $C_2$ 、 $C_{sus4}$ の3つについてはいずれも「好きである」の回答が60%台と高率であり、1%水準で有意であった。 $C_2$ は $C_{add9}$ の第9音を1オクターブ下げたものとも言え、近年新たなコードとして使われ始めたものである。このコード「好む」との回答の率は最も高く、67.8%であった。 $G_{7-g}$ は一応「好む」の回答が43.4%と高かったのではあるが「好まない」との差は4.6%しかなく、殆ど違いは無かったとみてよい。 $C_{dim}$ と $F_{dim7}$ はいずれも僅かに「好まない」の割合が高かったが、有意差は無い。又、この2つのコードはほぼ同じ性格である。回答の割合の分布が殆ど同じであることにも、そのことが反映していると言える。次に男子女子に分けて集計したものが表12と表13である。これらの結果と全体集計の結果の傾向と比較すると、いずれも大きな違いは見られず、問Cに関しては、男子と女子の間には好みの傾向に大きな違いは無いと言える。

次に1年と2年とで比較してみる。学年別に

集計したものが表14と表15である。1年と2年を比較すると $G_{7-g}$ を除いて他のコード全て、全体集計の傾向と殆ど同じである。 $G_{7-g}$ については1年は「好む」が47.7%、「好まない」が36.6%で僅かながら、「好む」とした者が多かった。逆に2年は「好む」とした者が37.1%「好まない」とした者が41.9%で、4.8%の差で「好まない」とした者が多かった。

以上のことから $C_{aug}$ は「好まれない」と見てよく、 $F_{m9}$ 、 $C_2$ 、 $C_{sus4}$ の3つは「好まれる」と見てよい。 $C_g$ 、 $C_{dim}$ 、 $F_{dim7}$ の3つは、僅かに「好まれない」傾向にある。 $G_{7-g}$ は「好まれる」場合と「好まれない」場合があるが、どちらにしても差は僅かである。

#### 5. 問D

問Dの全体集計は表16のとおりである。小問aでは「異なるコードである」が59.7%と半数を越えている。小問bになると「同じコードである」が47.7%、「異なるコードである」が、47.3%とほぼ同率になってくる。2問目であることから慣れが反映したものと考えられるが、「同じコードである」が、半数を越えてはいない。又、「分からない」が、3.1%から5.0%と僅かではあるがふえており、『同じコードのように聞こえるが自信がない』といった迷いがあったものと考えられる。

Table 16 Number of Answer for Question D

(N:258)

a. $C_6 \rightarrow A_{m7}$ n(%)	b. $D_{m7} \rightarrow F_6$ n(%)
yes: 96(37.2)	yes: 123(47.7)
no: 154(59.7)	no: 122(47.3)
ud: 8(3.1)	ud: 13(5.0)

次に男子と女子に組分けたものが表17と表18である。小問aで、男子の回答数が「同じコード～」と「異なるコード～」とが僅差であった他は、全体集計とほぼ同じ傾向であった。

学年別に見ると表19、表20のようになる。小問bが1年と2年とで逆の傾向を見せている。

以上の結果は大変興味深い。楽譜の上では転回型が異なる同一和音なのであるが、いずれの

Table 17 Number of Answer for Question  
D in Male (N:85)

a. $C_6 \rightarrow A_{m7}$ n(%)	b. $D_{m7} \rightarrow F_6$ n(%)
yes: 40(47.1)	yes: 37(43.5)
no: 43(50.5)	no: 42(49.4)
ud: 2( 2.4)	ud: 6( 7.1)

Table 19 Number of Answer for Question  
D in SchoolYear 1 (N:153)

a. $C_6 \rightarrow A_{m7}$ n(%)	b. $D_{m7} \rightarrow F_6$ n(%)
yes: 63(41.2)	yes: 84(52.2)
no: 88(57.5)	no: 60(39.2)
ud: 2( 1.3)	ud: 9( 8.6)

Table 18 Number of Answer for Question  
D in Female (N:173)

a. $C_6 \rightarrow A_{m7}$ n(%)	b. $D_{m7} \rightarrow F_6$ n(%)
yes: 56(32.4)	yes: 86(49.8)
no: 111(64.1)	no: 80(46.2)
ud: 6( 3.5)	ud: 7( 4.0)

Table 20 Number of Answer for Question  
D in SchoolYear 2 (N:105)

a. $C_6 \rightarrow A_{m7}$ n(%)	b. $D_{m7} \rightarrow F_6$ n(%)
yes: 33(31.4)	yes: 39(37.2)
no: 66(62.9)	no: 62(59.0)
ud: 6( 5.7)	ud: 4( 3.8)

小問も「同じコードである」との回答が過半数に達していない。このことは異なるコードかどうかの聞き分けは困難で、異なるコードとして認知される傾向が強い、と見ることができる。このことから「バス音は基本コードの性格を強化しコードを構成している下方3音が、メジャーコードの時はメジャーコードとして聞こえ、マイナーコードの時はマイナーコードとして聞こえることが多い」ということが仮説として成立するのではないかと考えられる。

#### IV 結論

今回の調査結果を次のようにまとめることができる。

1. 単純なメジャートライアドであるCは好まれる。

2. テンションノートを含んでいるコードのうち、 $C_{M7}$ 、 $F_{m9}$ 、 $C_2$ 、 $C_{sus4}$ は好まれる。

3.  $C_{aug}$ 、 $C_6$ 、 $C_{m6}$ は好まれない。

4.  $C_m$ 、 $C_{m7}$ 、 $C_9$ 、 $G_{7-9}$ 、 $C_{dim}$ 、 $F_{dim7}$ は好まれるとも、好まれないとも言えない。

5. 1～4の傾向について男子と女子の間には有意差はない。

6. 1～4の傾向について1年生と2年生の間には有意差はない。

7.  $C_6$ と $A_{m7}$ 及び $F_6$ と $D_{m7}$ の聞き分けについては、それぞれ同一コードの転回型として聞いているとは言えない。

#### V 参考文献

- (1) 三善晃他、高校音楽Ⅰ、教育出版株式会社、1994
- (2) 梅本亮夫、音楽心理学、誠信書房、1966
- (3) Rosamund Shuter (貫行子訳)、音楽才能の心理学、音楽之友社、1977
- (4) 相沢陸奥男、音楽的聴覚の研究、音楽之友社、1970
- (5) Roger P. Phelps (山本文茂他訳)、音楽教育研究入門、音楽之友社、1984

Table 2 Number of Answer for Question A

(N:258)

Chord	Answer	n (%)	sub-Chord	sub-Chord	Answer : n	
a. C	yes	181 (70.2)	f. C	yes:144	no: 18	ud: 19
	no	37 (14.3)	f. C	yes: 16	no: 17	ud: 4
	ud	40 (15.5)	f. C	yes: 16	no: 4	ud: 20
b. C6	yes	48 (18.6)	e. C6	yes: 26	no: 13	ud: 10
	no	150 (58.1)	e. C6	yes: 37	no: 83	ud: 30
	ud	60 (23.3)	e. C6	yes: 14	no: 11	ud: 35
c. Cm	yes	110 (42.7)	h. Cm	yes: 77	no: 21	ud: 12
	no	109 (42.2)	h. Cm	yes: 20	no: 73	ud: 16
	ud	39 (15.1)	h. Cm	yes: 10	no: 10	ud: 19
d. Cm6	yes	57 (22.1)	g. Cm6	yes: 32	no: 18	ud: 8
	no	160 (62.0)	g. Cm6	yes: 10	no:123	ud: 27
	ud	41 (15.9)	g. Cm6	yes: 10	no: 13	ud: 18

Table 3 Number of Answer for Question B

(N:258)

Chord	Answer	n (%)	sub-Chord	sub-Chord	Answer : n	
a. C	yes	175 (60.9)	f. C	yes:142	no: 15	ud: 18
	no	37 (14.3)	f. C	yes: 8	no: 24	ud: 5
	ud	46 (17.8)	f. C	yes: 11	no: 5	ud: 30
b. Cm7	yes	123 (47.6)	e. Cm7	yes: 87	no: 21	ud: 15
	no	91 (35.3)	e. Cm7	yes: 20	no: 55	ud: 16
	ud	44 (17.1)	e. Cm7	yes: 14	no: 9	ud: 21
c. Cm	yes	99 (38.4)	h. Cm	yes: 71	no: 12	ud: 16
	no	111 (43.0)	h. Cm	yes: 8	no: 68	ud: 35
	ud	48 (18.6)	h. Cm	yes: 6	no: 15	ud: 27
d. Cm7	yes	105 (40.7)	g. Cm7	yes: 77	no: 19	ud: 9
	no	102 (39.5)	g. Cm7	yes: 22	no: 66	ud: 14
	ud	51 (19.8)	g. Cm7	yes: 10	no: 12	ud: 29

Table 5 Number of Answer for Question A(a~d)

(N:258)

Chord	Answer : n (%)		
a. C	yes : 181 (70.2)***	no : 37 (14.3)	ud : 40 (15.5)
b. C6	yes : 48 (18.6)	no : 150 (58.1)**	ud : 60 (23.3)
c. Cm	yes : 110 (42.7)	no : 109 (42.2)	ud : 39 (15.1)
d. Cm6	yes : 57 (22.1)	no : 160 (62.0)**	ud : 41 (15.9)

\*\*\* P&lt;0.005 \*\* P&lt;0.01

Table 6 Number of Answer for Question A(a~d) in Male and Female

Chord	Sex	Answer : n (%)		
a. C	Male	yes : 60 (70.6)**	no : 13 (15.3)	ud : 12 (14.1)
	Female	yes : 121 (69.9)***	no : 24 (13.9)	ud : 28 (16.2)
b. C6	Male	yes : 20 (23.5)	no : 44 (51.8)*	ud : 21 (24.7)
	Female	yes : 28 (16.2)	no : 100 (61.3)**	ud : 39 (22.5)
c. Cm	Male	yes : 34 (40.0)	no : 33 (38.8)	ud : 18 (21.2)
	Female	yes : 76 (43.9)	no : 76 (43.9)	ud : 21 (12.2)
d. Cm6	Male	yes : 20 (23.5)	no : 46 (54.1)*	ud : 19 (22.4)
	Female	yes : 37 (21.4)	no : 114 (65.9)***	ud : 22 (12.7)

(Male N:85 Female N:173)

\*\*\* P&lt;0.01 \*\* P&lt;0.02 \* P&lt;0.05

Table 7 Number of Answer for Question A(a~d) in School Year

Chord	S.Year	Answer : n (%)		
a. C	1	yes : 114 (74.5)***	no : 18 (11.8)	ud : 21 (13.7)
	2	yes : 67 (63.8)**	no : 19 (18.1)	ud : 19 (18.1)
b. C6	1	yes : 33 (21.6)	no : 83 (54.2)*	ud : 37 (24.2)
	2	yes : 15 (14.3)	no : 67 (63.8)**	ud : 23 (21.9)
c. Cm	1	yes : 72 (47.1)*	no : 64 (41.8)	ud : 17 (11.1)
	2	yes : 38 (36.2)	no : 45 (42.8)	ud : 22 (21.0)
d. Cm6	1	yes : 35 (22.9)	no : 100 (65.3)***	ud : 18 (11.8)
	2	yes : 22 (21.0)	no : 60 (57.1)*	ud : 23 (21.9)

(Year1 N:153 Year2 N:105)

\*\*\* P&lt;0.01 \*\* P&lt;0.02 \* P&lt;0.05



Table 8 Number of Answer for Question B(a~d)

(N:258)

Chord	Answer : n (%)		
a. C	yes : 175 (67.9)***	no : 37 (14.3)	ud : 46 (17.8)
b. CM7	yes : 123 (47.6)*	no : 91 (35.3)	ud : 44 (17.1)
c. Cm	yes : 99 (38.4)	no : 111 (43.0)	ud : 48 (18.6)
d. Cm7	yes : 105 (40.7)	no : 102 (39.5)	ud : 51 (19.8)

\*\*\* P<0.005      \* P<0.05

Table 9 Number of Answer for Question A(a~d) in Male and Female

Chord	Sex	Answer : n (%)		
a. C	Male	yes : 52 (61.1)*	no : 14 (16.5)	ud : 19 (22.4)
	Female	yes : 123 (71.1)***	no : 23 (13.3)	ud : 27 (15.6)
b. CM7	Male	yes : 45 (53.0)*	no : 25 (29.4)	ud : 15 (17.6)
	Female	yes : 78 (45.0)	no : 66 (38.2)	ud : 29 (16.8)
c. Cm	Male	yes : 36 (42.3)	no : 35 (41.2)	ud : 14 (16.5)
	Female	yes : 63 (36.4)	no : 76 (43.9)	ud : 34 (19.7)
d. Cm7	Male	yes : 46 (54.2)*	no : 28 (32.9)	ud : 11 (12.9)
	Female	yes : 59 (34.1)	no : 74 (42.8)	ud : 40 (23.1)

(Male N:85      Female N:173)      \*\*\* P<0.01      \* P<0.05

Table 10 Number of Answer for Question A(a~d) in School Year

Chord	S.Year	Answer : n (%)		
a. C	1	yes : 103 (67.3)***	no : 21 (13.7)	ud : 29 (19.0)
	2	yes : 72 (68.6)**	no : 16 (15.2)	ud : 17 (16.2)
b. CM7	1	yes : 73 (47.8)*	no : 55 (35.9)	ud : 25 (16.3)
	2	yes : 50 (47.6)	no : 36 (34.3)	ud : 19 (18.1)
c. Cm	1	yes : 65 (42.4)	no : 59 (38.6)	ud : 29 (19.0)
	2	yes : 34 (32.4)	no : 52 (49.5)	ud : 19 (18.1)
d. Cm7	1	yes : 58 (37.9)	no : 65 (42.5)	ud : 30 (19.6)
	2	yes : 47 (44.8)	no : 37 (35.2)	ud : 21 (20.0)

(Year1 N:153      Year2 N:105)      \*\*\* P<0.01      \*\* P<0.02      \* P<0.05

Table 11 Number of Answer for Question C

(N:258)

Chord	Answer : n(%)		
a. C <sup>aug.</sup>	yes : 57 (22.1)	no : 155 (60.1)***	ud : 46 (17.8)
b. C <sup>9</sup>	yes : 100 (38.8)	no : 118 (45.7)	ud : 40 (15.5)
c. F <sup>m9</sup>	yes : 163 (63.2)***	no : 61 (23.6)	ud : 34 (13.2)
d. G <sup>7-9</sup>	yes : 112 (43.4)	no : 100 (38.8)	ud : 46 (17.8)
e. C <sup>dim.</sup>	yes : 90 (34.9)	no : 119 (46.1)	ud : 49 (19.0)
f. F <sup>dim7</sup>	yes : 91 (35.3)	no : 116 (44.9)	ud : 51 (19.8)
g. C <sup>2</sup>	yes : 175 (67.8)***	no : 47 (18.2)	ud : 36 (14.0)
h. C <sup>sus4</sup>	yes : 157 (60.9)***	no : 61 (23.6)	ud : 40 (15.5)

\*\*\*\* P&lt;0.005    \*\*\* P&lt;0.01

Table 12 Number of Answer for Question C in Male

(N:85)

Chord	Answer : n(%)		
a. C <sup>aug.</sup>	yes : 22 (25.9)	no : 50 (58.9)	ud : 13 (15.2)
b. C <sup>9</sup>	yes : 36 (42.4)	no : 36 (42.4)	ud : 13 (15.2)
c. F <sup>m9</sup>	yes : 52 (61.3)	no : 20 (23.5)	ud : 13 (15.2)
d. G <sup>7-9</sup>	yes : 38 (44.8)	no : 34 (40.0)	ud : 13 (15.2)
e. C <sup>dim.</sup>	yes : 29 (34.1)	no : 41 (38.3)	ud : 15 (17.6)
f. F <sup>dim7</sup>	yes : 29 (34.1)	no : 39 (45.9)	ud : 17 (20.0)
g. C <sup>2</sup>	yes : 56 (65.9)	no : 18 (21.2)	ud : 11 (12.9)
h. C <sup>sus4</sup>	yes : 53 (62.4)	no : 17 (20.0)	ud : 15 (17.6)

Table 13 Number of Answer for Question C in Female

(N:173)

Chord	Answer : n(%)		
a. C <sup>aug.</sup>	yes : 35 (20.2)	no : 105 (60.7)	ud : 33 (19.1)
b. C <sup>9</sup>	yes : 64 (37.0)	no : 82 (47.4)	ud : 27 (15.6)
c. F <sup>m9</sup>	yes : 111 (64.2)	no : 41 (23.7)	ud : 21 (12.1)
d. G <sup>7-9</sup>	yes : 74 (42.7)	no : 66 (38.2)	ud : 33 (19.1)
e. C <sup>dim.</sup>	yes : 61 (35.3)	no : 78 (45.0)	ud : 34 (19.7)
f. F <sup>dim7</sup>	yes : 62 (35.8)	no : 77 (44.5)	ud : 34 (19.7)
g. C <sup>2</sup>	yes : 119 (68.7)	no : 29 (16.8)	ud : 25 (14.5)
h. C <sup>sus4</sup>	yes : 104 (60.1)	no : 44 (25.4)	ud : 25 (14.5)

Table 14 Number of Answer for Question C in School Year 1

(N:153)

Chord	Answer : n (%)		
a. C aug.	yes : 37 (24.2)	no : 90 (58.8)	ud : 26 (17.0)
b. C9	yes : 56 (36.6)	no : 70 (45.8)	ud : 27 (17.6)
c. F m9	yes : 85 (55.6)	no : 45 (29.4)	ud : 23 (15.0)
d. G7-9	yes : 73 (47.7)	no : 56 (36.6)	ud : 24 (15.7)
e. C dim.	yes : 51 (33.3)	no : 69 (45.1)	ud : 33 (21.6)
f. F dim7	yes : 54 (35.3)	no : 74 (48.4)	ud : 25 (16.3)
g. C2	yes : 101 (66.0)	no : 30 (19.6)	ud : 22 (14.4)
h. C sus4	yes : 92 (60.1)	no : 37 (24.2)	ud : 24 (15.7)

Table 15 Number of Answer for Question C in School Year 2

(N:105)

Chord	Answer : n (%)		
a. C aug.	yes : 20 (19.0)	no : 65 (62.0)	ud : 20 (19.0)
b. C9	yes : 44 (41.9)	no : 48 (45.7)	ud : 13 (12.4)
c. F m9	yes : 78 (74.3)	no : 16 (15.2)	ud : 11 (10.5)
d. G7-9	yes : 39 (37.1)	no : 44 (41.9)	ud : 22 (21.0)
e. C dim.	yes : 39 (37.1)	no : 50 (47.7)	ud : 16 (15.2)
f. F dim7	yes : 37 (35.2)	no : 42 (40.0)	ud : 26 (24.8)
g. C2	yes : 74 (70.5)	no : 17 (16.2)	ud : 14 (13.3)
h. C sus4	yes : 65 (61.9)	no : 24 (22.9)	ud : 16 (15.2)

譜例 1

### When You Wish Upon a Star 星に願いを

Moderato 作曲/N. ワシントン 作詞/L. ハーライン

When you wish up - on a star, makes no diff - rence who you are.

An - y - thing your heart de - sires will come to you

dream - ers do Fate is kind, she brings to

those who love, the sweet ful - fill - ment of their se - cret

long ing, \_\_\_\_\_ dream comes true. \_\_\_\_\_

D.S. Coda

譜例 2

# 自転車でおいで

作詞/糸井重里 作曲/矢野顕子 編曲/源田俊一郎★

Moderato ♩ = 110 < さい

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The tempo is marked 'Moderato' with a quarter note equal to 110 beats per minute. The score is divided into several systems, each with a key signature change indicated by a sharp sign on the treble clef line.

**System 1:** Chords: Gm9/C, Fmaj7. Lyrics: 1 マルがつバ ツ にちー, 2 マルがつバ ツ にちー.

**System 2:** Chords: Cm7, Fm7, Bbmaj9, Dm9, G/A, Em9, A/B. Lyrics: あめのちく もり ほくはだれかを すきとかくー, はれのちく もり ほくはだれかが だれかをしる.

**System 3:** Chords: Bbmaj7, Gm7, A7sus4, Bbmaj7/C. Lyrics: そ れがーだ れーだか わからないー まどのそと, そ してーな まーえをかいてみるー にわのいけ.

**System 4:** Chords: Fmaj7, Cm7, Fm7, Bbmaj9, Dm9, G/A. Lyrics: をいぬがー あるいてゆく くろいはな, をねこがー のそいてい る ちいさなねこ.

**System 5:** Chords: Em9, A/B, Bbmaj7, Gm7, A7sus4. Lyrics: くろいあし い つもーひ とーりでいるいぬだー, ちいさなみず い つもーお なーかをへらしてるー.

**Footnote:** (小音符は2番の時)

A7 Fm C7sus4 C7

Ru (または口笛で)

D♭maj7 E♭<sup>9</sup> D♭maj7 Csus4 C *mf*

し ら ー い あ な た ー に あ い た ー い な ー  
 い つ か ー は あ な た ー に あ い た ー い な ー

B♭maj7 Am7 Gm7 F7 B♭maj7 Am7 Gm7 F7

てんしゃでー おいでよ ほくのいえは {すくそこだよ  
 すくそこだよ  
 まだあるのさ

B♭maj7 Am7 Gm7 Gm7/C to C♯ 1. Fsus4 F 2. Fsus4 F

とうふやの 7 か どころら よんけんめ  
 きゅうにゅうの あき びんが めじるし さ し  
 あさひと 7 ゆ うひが あたーい

(小音符はD.S.の時)

to C♯ 1. 2. D.C. D.S.

Coda D♭maj7 E♭<sup>9</sup> F

え -

dim. rit.